



第12回

リ サ イ ク ル

新品いっぱい バザー

4月14日(土) 午前10時
鳥山区民センター前広場

(雨天の場合は3階会議室とセンター前広場テント内で行います)

17年間活動を続けてきた
住民協議会にご協力
をお願いします。

鳥山地域
オウム真理教対策
住民協議会

初めての物品提供
大歓迎です

オウム真理教対策住民協議会が行う、リサイクルバザーも12回目を迎えます。オウム真理教の「解散・解体」を目標に続けてきた活動も18年目に入り、未だに不穏な活動を続けるオウム信者から目を離す事が出来ません。私たちは年2回の抗議デモと学習会、毎月の協議会ニュースの発行、毎日のオウム施設の監視活動などを、皆様からの募金で行っています。

この様な活動を続けるために、リサイクルバザーの売上げは活動資金として住民協議会を支えています。今年もバザーの売上げで、住民協議会の活動が続けられますよう、ご協力をよろしくお願い致します。

1) 物品受付日時と場所

- 4月4日(水) 午前10時~12時 鳥山区民センター 3階第6会議室
- 4月6日(金) 午後1時~3時 鳥山区民センター 3階第6会議室
- 4月8日(日) 午前10時~12時 鳥山区民センター 3階第6会議室
- 4月10日(火) 午後1時~3時 鳥山区民センター 3階第6会議室
- 4月12日(木) 午前10時~12時 鳥山区民センター 3階第6会議室

※鳥山区民センターに駐車場はありません。

2) 受付物品

- 日用品 (石けん、タオル、シーツ、陶器類、乾物類など)
- 衣料品 (子供服、婦人服、紳士服など新品、あるいはクリーニング済みのもの)
- 雑貨 (アクセサリ、玩具、ハンドバッグ、靴、時計など)

※物品によってはお受け出来ないものもあります。

※陶器類・靴は新品に限ります。ご了承ください。

●お問い合わせ：03 (3326) 1202 (鳥山総合支所内事務局)

第36回 抗議デモ・学習会

5月12日(土)

学習会の講師は現在調整中です。
決まり次第次号(4月号)で
発表いたします。

●抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 鳥山区民センター前広場

●学習会 午後2:30開会 鳥山区民センターホール

パンフ「その勧誘だいじょうぶ？」の配布

オウム真理教を知らない若い世代が増える中、住民協議会では、毎年、区内大学の新生向けに、「日本脱カルト協会」が発行しているカルトの勧誘を防ぐためのパンフレット「その勧誘だいじょうぶ？」を購入し、配布しています。今年も8大学から約9,800部の申し込みがありました。パンフレットは、新生に配布できるよう各大学にお届けしました。

「その勧誘だいじょうぶ？」申込状況 (平成29年度)

大学名	希望枚数
東京医療保健大学	800
国士舘大学	3,500
昭和女子大学	1,800
多摩美術大学	1,400
東京農業大学	100
日本大学商学部	1,500
日本女子体育大学	600
東京都市大学	100
合計	9,800



次回の発行予定は4月10日(火)です。

地下鉄サリン事件から23年を迎えるにあたり 寄稿

1995年に起きた地下鉄サリン事件は、今年3月20日で23年目となる。「宗教団体」が、あのような凄惨なテロ行為をするなど、私たちは思いもよらなかった。オウム真理教が公証役場事務長殺害事件の発覚を恐れ、捜査の攪乱を目的に、地下鉄の5路線の車内に猛毒サリンを撒くという、まったく身勝手な事件だった。座席から崩れ落ちる人、ホームや階段で倒れる人、階段を登りやっとの思いで地上に這い出たが、息苦しきで路上に倒れる人で、現場は大混乱に陥った。13人が死亡、約6200人が負傷するという大惨事となった。神経ガス、サリンは視神経の機能低下と、呼吸困難を引き起こし、重篤な場合は死に至る。昨年11月の学習会の講師、筑波大学教授松井豊氏は「サリン毒はまず目の異常が先にくるが、年月が経つほど病状が悪化する」とサリンの特徴を指摘。「PTSDになっても、医師の理解がなく相談治療する病院がない。孤独、不安、絶望

で死にたい」と病状の悪化や好転が望めず、失望のなかで暮らす多くの被害者がいることを語った。オウム真理教事件の判決は無期懲役6人、死刑13人で、今年1月に裁判はすべて終結したが、それをもってオウム真理教事件は終わったとは言えない。サリン被害者の多くが、病状悪化や偏見で、生きることとに困窮すると共に、家族も同様に苦しんでいる。さらに、後継団体（ひかりの輪・アレフ）は未だ全国に存在し、アレフに至っては、麻原彰晃の教えを忠実に実行する団体となっている。一方、ひかりの輪は脱麻原を表面に出すが、代表の上祐史浩が、オウム真理教時代に行った数々の悪行を思い起せば、その信憑性は不明で危険性を含んでいる。先の見えない不安定な社会状況下で暮らし、生き方に戸惑い、不安を募らせている若者が多いことも心配だ。そのような若者が自らの意に反し、カルト教団に取り込まれることだけは防がなければならない。

高橋克也の上告、最高裁が棄却。オウム真理教事件裁判すべて終結 寄稿

高橋克也に対する最高裁の上告棄却の判断により、オウム真理教事件すべての裁判が終結した。事件はこの国の犯罪史上稀にみる、凄惨で凶悪なものだった。信者の入信の経緯に違いはあるが、一応に真面目で、生きる事に真剣な若者が多かった。教祖麻原彰晃はそれを逆手にとり、教団内の組織や階級制度を確立、さらに説法や修行により人心を籠絡することに執拗であった。社会経験が未熟な信者は、教団に疑問を持ちながらも、半ば強制的に殺人鬼への転向を余儀なくされた。それは未来を夢み志を持つ青年信者と共に、その家族をも奈落の底へと突き落とした。無期懲役6人、死刑は教祖麻原彰晃を含め13人。その中には未だ元教祖の呪縛が解けず、自らに向き合えない信者がいる一方、事件への関与に苦しみ、反省を口にする信者も少なくない。殺人を犯した事実は隠しようもないが、麻原彰晃という絶対的な権力を前に、人間としての尊厳さえむしり取られた信者は、無力であった。事実は冷酷で、オウム真理教事件に関わった信者すべての裁判が終結したことで、これからは死刑執行へ粛々と進んでいき、国民の脳裏からいづれ消え去るであろう。その前に死刑囚は重要な役割が残っているこ

とを自覚しなければならない。犯した罪と対峙し、社会と向き合い、どのように生きていくのかとの間に、彼らは心魂を傾ける義務がある。カルトによる忌まわしい事件が、再び繰り返されることのないように、自戒を込め、オウム真理教に関わった自らのすべてを、これから生きる若者に語ってもらいたい。どのような形でもかまわない、そのことが実践されなければ、この事件が真に解決されたとは言えない。

13人の死刑囚に関わった事件

麻原彰晃（地サ・松サ・坂殺）	岡崎一明（坂殺）
横山真人（地サ）	端本悟（松サ・坂殺）
林泰男（地サ・松サ）	早川紀代秀（坂殺）
井上嘉浩（地サ）	豊田亨（地サ）
広瀬健一（地サ）	新実智光（地サ・松サ・坂殺）
土谷正実（地サ・松サ）	中川智正（地サ・松サ・坂殺）
遠藤誠一（地サ・松サ）	

●地サ＝地下鉄サリン事件 松サ＝松本サリン事件
坂殺＝坂本弁護士一家殺害事件

住民協議会活動報告

2月18日（日） 粕谷子どもまつりで募金活動
2月22日（木） 住民協議会
2月26日（月） 編集会議 協議会ニュース173号初校正
3月5日（月） 編集会議 協議会ニュース173号再校正

3月6日（火） 事務局会議
3月11日（日） 三世代地域交流もちつき大会で募金活動
3月13日（火） 協議会ニュース173号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。